

先週のファミリー礼拝(2022年1月30日) ゆりこ牧師

「素直なこころ」 マルコ 4:1-9

今日のお話は、四種類の土地に落ちた種のお話です。

種を蒔く人が種まきに出かけました。

種を蒔いていると、一つは道端に落ちました。すると鳥がやってきて、美味しい餌があるぞ、と食べてしまいました。ですから、目を出すどころか、すぐに消えてなくなりました。



もう一つは石ころだらけの岩地に落ちました。岩が多くて土が少ないので、芽は出しましたが、根を張ることができなくて、熱い太陽が照りつくと枯れてしまいました。



三つ目の種はイバラの中に落ちました。イバラがどんどん伸びて、陽も当たらず、栄養も行き渡らず、せっかく芽を出したのに、やっぱり途中で枯れてしまいました。



四つ目の種はよく耕された良い地に落ちました。柔らかな土といっぱいの太陽の光で、芽を出し成長して、たくさんの実を結びました。



イエス様はこの譬えから、大切なことを教えようとされています。

お弟子さんたちがイエス様にこの種まきのお話の意味を尋ねると、イエス様は次のように教えてくださいました。種はみ言葉、聖書の言葉のことです。土地は私たちの心のことです。

道端に落ちた種とは、聖書の言葉を聞いても、心に受け入れようとしない固い心のことです。「聖書なんて読みたくない。神様なんて信じない」そう言って聞こうともしないと、サタンがそのみことばをとっていってしまいます。

岩地に落ちた種とは、聖書の言葉を最初は喜んで聞きますが、何か自分の都合が悪いことが起こったり、苦しいことが起こると「やっぱりやーめた」と、聖書の言葉を捨ててしまう人です。

次にイバラの中に落ちた種とは、聖書の言葉を聞いて、信じはするけれど、この世の楽しいこと、あるいは仕事や部活が忙しくなって、イエス様

のことよりそっちの方を優先してしまうようになり、信仰をなくしてしまうということが起こるのです。

では、良い地に蒔かれた種とはどんな心でしょう。素直にみ言葉を聞いて、受け止めて、信じる人、それも、いつもイエス様を求め、聖書の言葉を心に蓄える人のことです。

四つの土地に落ちた種は同じ種でした。でもその中の道端のように硬い心にはせっかくのみことばもあつという間にとられてしまいました。

岩地のように根を張ることができない心は、最初は喜んで教会に来たりするけれど、嫌なことがあるともう行かないとなってしまいます。イバラの心は、誘惑や楽しいことがあると負けてしまい信仰をなくしてしまいます。

聖書の言葉を聞いても、その人の心の状態でこんなにも違いが出てきてしまいます。

イエス様が私たちが愛して十字架にかかってまで私たちが救おうとしてくださり、イエス様を信じるなら罪が赦されて神様の子にもになれる、天国に行くことができる、こんな素晴らしい約束を、聖書は語っています。

いらないと拒むのではなく、イエス様ありがとう、信じますと、素直な心で福音を受け取りましょう。

聖書は時々、わたしたちがびっくりするようなことを語りかけ、示す時があります。

私たちがアメリカから日本へ宣教に来る時もそうでした。

去年の今頃は、日本へ宣教に行きなさいというお言葉だけで、それがいつなのか、日本のどこか、どういう形で実現するのかさえも分かりませんでした。信頼するのは、神様からのお言葉と、召しだけでした。そして今、ここにいます。ハレルヤ。

私たちの心が柔らかであるなら、みことばの種には命があります。必ず芽を出し実を結び、それは30倍60倍100倍の祝福をもたらすことは間違いありません。

